



いざなぎ学園だより

No. 9 2023.7/19

◆令和5年度 淡路文化会館「いざなぎ学園」第9回講座◆

令和5年7月19日(水)「いざなぎ学園」第9回講座、午前は専門講座6
「淡路島の未来の姿」～あわじ環境未来島構想と地域ビジョン2050～(講師 淡路県
民局交流渦潮室 富永正貴 氏)、午後はサークルB2彫刻・カラオケ・手芸・文芸・
書道・民謡・社交ダンス・PC中級が行われました。



◎学園生のみなさんの感想 振り返りシートから(抜粋)

・只々、年を重ね、今は「いざなぎ学園」に通っていることで少しは心が満たされ、生活にメリハリを感じています。淡路島の人口減や高齢率が心配ですが、未来構想やビジョンが一つでも現実化され、みんなが安心して生活できる淡路島になればと思います。今日は、楽しく勉強できました。ありがとうございました。

・私の生まれ育った淡路島ですが、子供たちは大学進学とともに淡路島を離れました。年々の人口減の中、子供たちもいつかUターンしてくれることを望んでいます。最近、島外の車が多いのにはびっくりしますね。新鮮な魚、肉、野菜など淡路島の豊かな食は人気があるんですね。

・淡路島の現状と「2050淡路島地域ビジョン」について知ることができました。ビジョン実現に向けて「住民・地域」「企業・団体」「行政」それぞれの役割を果たすことが重要だと考えます。地域の役割、私たちにできることは難しいことではなく、身近ですぐに実行できることがたくさんあってよかったです。

・人口減、高齢化、たくさんの課題を抱えた淡路島。反面、高い潜在能力を持っていることに少し希望が見えたような気がします。観光ばかりでなく、人々が心豊かに住める島であってほしいと思います。

・淡路地域ビジョンを通して自分の住む淡路島の実態や課題がよくわかりました。2050年は、私たちの世代では見ることのできない未来ですが、身近に感じることができ、また想像が膨らむようにお話しいただき、よかったです。

・いろいろと行政が取り組んでいらっしゃることはよくわかりました。島がにぎわってほしい気持ちと静かに暮らしたい気持ちと複雑です。70代の私としては、淡路島が未来構想で大きく変わり、淡路島の良さが壊されていくようで不安を感じます。また、それぞれの計画に対しての住民意識も知りたいところです。淡路島は道路が狭くて計画がうまくいくかどうか心配です。

・淡路島生まれで島育ちの県民局の方が、班長として経済活動を主導されているのは素晴らしいことだと思います。広範囲にわたって取り組んでおられることに感心しました。総花的にならずに食、農、観光など焦点化して取り組まれたら良いと思います。

・淡路島の未来を考えるにあたり、子供たちが住み続けたいと思えるかどうか。自然豊かで交通の便が良く、文化的に暮らせる島になってほしいと思います。行政、企業、地域・住民の役割を考え、協力体制の構築が大切だと思います。

・淡路島の未来に向けて様々取り組みを実施していることを知りました。わかりやすいお話でした。恵まれた淡路島に住んでいることに感謝です。私なりに地域行事に参加しているつもりですが、もう少し積極的に頑張ってみようと思います。2050年、誰もが幸せに暮らせる島になっていくよう、わたしたちできる役割は何か考えていきたいです。

・淡路島の未来の姿で一番ショックだったのは、2050年島内の人口が7万になるという予想。今でも人が少なく、将来どうなるのか心配していますが、まだこれから5万人強も減少する予想。人口問題が最重点課題だと思う。

・ずっと淡路島に住み続けたいと思います。人口減少、高齢化、交通の不便さ、医療の充実、災害への備えなど課題は多いです。私たちだけでなく、次の世代が健やかに暮らしていけるような地域社会をつくっていく「淡路環境未来構想」計画。70歳を前に、さて私は何をどうすればよいかを考えてみたいと思いました。

・2050年、もしかしたらまだ生きているかもしれません。今、私が住んでいる地域の現状を見ていると人口減少、少子高齢化で家の外に出ても誰にも会わず静かです。もっと若いも若きも生き活きとふれあうような地域になればと思います。結びに提案された「私たちにできることごと」を些細なことですが実践していきたいと思いました。

・すごく落ち着いた語り口でわかりやすくお話がずっと入ってきました。淡路島は高齢化率県下一、そんな中でいろいろな取り組みが各分野でなされていることを整理して教えていただき新たな発見がありました。エネルギーの地産地消、水素を活用したエネルギーの自立度の向上、EV自動車、FCV(燃料電池)と水素を使った自動車の推進、災害への取り組みも必要だと実感しました。